

日本輸出陶磁器の動向 (四)

杉 山 精 一

十五、阿弗利加部

(イ) 南阿弗利加聯邦

主要産業は農業鑛業で工業は未だ幼稚で陶磁器工業の如きは煉瓦を主とし、土人向の幼稚な陶磁器・タイル・土器を生産するに過ぎずして他國より供給を受けてゐる。

輸入陶磁器を國別に示すと

	一九二七年	一九二九年	一九三三年
英國	三、四九三磅	二、三三七磅	九一千磅
獨逸	二、〇五〇	六、九八五	四
致須	四	八	七九
日本	五、五九六	三、九二一	

日本は英國を追及し漸次接近しつつあり。

(ロ) 南ローデシア

一九三三年當地方へ輸入されし陶磁器・硝子・

日本輸出陶磁器の動向

洋灰等は七三、〇四七磅にして國別を見るに

英國	三五、〇九六磅	白耳義	三、一二一磅
埃及	九、三八四	米國	二、一八九
日本	三、六八六	獨逸	一、九五〇
致須	二二、九一	英領	一〇六

日本は第三位にあつて進出の餘地がある。

(ハ) 英領東阿弗利加

當地方はタイル工場を除き製陶工場なく多少赤土製植木鉢製造せらるゝに止り、日本品は千百萬人の土人の大陸的製品即安値の實用的ものを輸入し、英國品の上級向、獨逸品の一般家庭日用品・裝飾品に對抗し、又近時日本より直行航路に依つて一層進出の拍車をかけ市況は一變した。各國の競争狀態は

第六圖



ンタ・タンガニールの關稅同盟で次の如く定めらる。

煉瓦タイル 從價一割

一般陶器 從價二割

衛生陶器 從價一割

(但しサンチバルに限り一般陶器は一、五割である)

以上の如く日本品の進出を恐れ防遏策に出んとするに鑑み一九三四年三月十五日輸出組合は最低値段の統制實施をなせり。

英 一九二九年 一九三三年
 一、二、三六〇磅 四、〇七三磅
 致 四三二 一三一
 獨 三、〇〇二 一五八
 和 二七九 二〇八
 日 三、八二六 四、四八四

英國品の大幅減少に比べ日本品は増加し遂に英國を退けて榮冠を奪つた。關稅はケンヤ・ウガ

硬質陶器	單位	最低價格	一兩入(最高)及才量(最低)
④肉皿 白丸	七吋 打	壹錢	六打 二才
③〃	八吋 〃	壹	四〇 三
②〃	九吋 〃	一、〇〇	三〇 二〇
①〃	九吋半 〃	一、二五	二四 一〇
⑦スリプ皿 白丸	一〇吋 〃	一、四六	二〇 十、五
⑥〃	九吋 〃	一、〇〇	三〇 一〇
⑤〃	九吋半 〃	一、二五	二四 一〇
④〃	八吋 〃	一、〇〇	三〇 一〇
③〃	七吋 〃	一、二五	二四 一〇

磁器 十吋 〃 一、四八 二〇打 二〇才

◎二五以上コーヒ碗皿 〃 壹 〃 〇

(金付又給付)

④廿一揃、二五以上磁皿半打
ティセツト、七寸以上茶一皿一個 組 六 三〇組 六

備考 地區、葡領アフリカ・英領南北ロデシヤ及南阿聯邦

(ニ) 葡領東アフリカ

一九二九年陶磁器輸入状況左の如し。

獨逸 一四、一一六 エスガトス (エスガトス約二、一六)

英國 一四、七五〇

日本 七、九四一

救須 六九

合計 四四、五七四

十六、中南米部

(イ) アルゼンチン

内地生産なきため全部外國より輸入する。輸入状況は

陶器 磁器 總計

一九二四 一、一五九、二〇六 五九八、一七〇 二、三三、四四五

一九二六 一、四二、四七六 五九八、一七〇 二、三三、四四五

日本輸出陶磁器の動向

一九二七 一、四九〇、六八五 六六六、九〇三 二、四〇一、三三三
日本よりの輸入は

陶器 磁器

一九二四 八、四三三、ベソ 二六、七五、ベソ 一四七、八四、ベソ

一九二六 二、四四、 三三、七二 一五、九〇五

外國との競争状況は(一九二六年)

獨逸 六五五、六一八、ベソ 二九%

自耳義 四九〇、三一 二〇%

英國 四二九、二五五 一九、三

佛國 二二三、九一〇 一〇、三

日本 一五三、九〇五 七、〇

伊國 五七、六六九 二、六

米國 三九、一五五 一、八

獨逸品第一で二割九分を占め磁器陶器土器を販賣し、日本は第五位で磁器のみを多く進出させ、平均二割二分に當るが全體としては全輸入の七分にしか當らない状態である。

(ロ) ブラジル

一九三三年に日伯貿易總額 一六、五五〇コン
トスで前年に比して 七、三八二コントス増加を
示し(一コントス約二百三十圓) 日本より一二、

二八一コントスを輸入し日本へ四、二六九コントスを輸出した。

本邦よりの陶磁器は二、一五六コントスで前年七九八コントスに比べて約二倍の増加である。即邦貨三十七萬圓で五四四、二五六疋の數量である。

十七、歐洲部

(イ) 英國

陶磁器工業は歐洲大戰中に各市場の放棄と世界的不況に依つて献身的努力を拂ふにも係らず舊態に復するには困難な状態にある。最近外國への輸出を見るに

一九二六	一九九、八〇〇	五、九四四、七三磅
一九二七	一八五、三九	五、六六六、二三
一九二八	二、四〇、七三	五、二九、七三
一九二九	二、九六六	五、六〇、〇六
一九三〇	一、八〇、三七	四、五八、三四

一番深刻に脅威されたは濠洲市況であつて、英國製陶業者は國產愛用宣傳を以て需要を喚起してゐる。

最近本邦輸入陶磁器は左の通りである。

一九二九	七四、八二七磅
一九三〇	九三、二二七
一九三一	一一五、三一
一九三二	八八、四二〇
一九三三	一三六、九四六

一九三三年の十三萬六千磅は本邦品の輸入より見て金額に於て第十一位を占め堅實な地位である。又如何なる種類が輸入されたかを見ん。

半透明磁器	電氣用品	一般陶器
一九三〇年	四、八六磅	四、八六
一九三一	三、五三	四、三三
一九三二	五、八二	五、〇九
一九三三	三、八七	一七、六五

磁器類は減少するに反し、一般陶器電氣用品は逐年激増の傾向を示してゐる。

(ロ) 致須

致須は國內に良質粘土を有し昔時は食器其他を旺に製造し生産額の八割五分は輸出した事がある。輸出先は伊・瑞・英・獨・羅で、

一九二八年 三一九百總

一九三二 一七八

一九三三 一五八

逐年減少を示した。これは輸出先の伊・英・

瑞・獨が世界的不景氣のため關稅引上、爲替制限實施中であり、波蘭は輸入稅七割に増し、洪牙利は關稅戰のため喪失、土耳其は輸入割當となり、芬蘭は爲替管理で輸入不可能、この外獨逸品、英國品が近來進出著しいのと日本品により各市場に於て激甚な競争となり歐洲及南洋南北米の各市場より漸次驅逐されつゝあつて大打撃を蒙りしは磁器であつた。即日本品による影響は甚大なものである。

かゝる状態である故産業上の不景氣益々増大し従つて輸出工業依然として不振である。

(一) 獨逸

獨逸は近年國內生産の約四割より五割を海外へ輸出し

日本輸出陶磁器の動向

輸出總量 金額 磁器 食用陶器

一九二三年 百貳 百萬馬克 百貳 百萬馬克 百貳 百萬馬克

一九三〇 一、四六六 六、七 二、三三 五、九 三、三九

一九三一 一、三五六 六、七 二、一五 一、一〇 三、五〇

一九三二 一、二六 六、七 二、一五 一、〇六 三、四二

一九三三 六、三 三、七 二、三 二、一 二、五八

諸外國の通商政策的妨遏の保護關稅輸入割當と爲替下落とにより影響すること甚しく、輸出が減少し、價格は一九三一年は先年に比べ二六%一九三二年には四〇%一九三三年には八%の減退を示し、磁器は稍々日常品は不振なれど、裝飾品及電氣用最も不振を呈し、食用陶器や、有勢に見えるが重要性を失ひつゝあり。一九三四年に更に芬蘭の關稅引上、佛・瑞輸入割當、波蘭の精巧品輸入禁止、佛・濠・英・米の原產地記入制度、特に日本品進出に惱まれ、對外市場獲得に汲々たり。

(二) 和蘭

一九三四年陶磁器輸出入狀況は

嬰豆

六一

輸入 三二五、二三一噸 八、九八五千グルデン
輸出 一二七、八八〇 三、一三六
入超二〇萬噸を越え金額五百八十四萬九千グルデンである。

その内譯は(括弧ハ一九三三年度)

一、裝飾ある磁器輸入

獨 二、三四〇噸 一、〇五五千グルデン
日 二、一六一 五二二
致 一、三五七 六四七

總計 五、九五三 (六、三二三) 二、二八四 (二、六二四) 千グルデン

二、裝飾ある陶器

英 七二七噸 三四〇千グルデン
獨 一、六七六 五一八
日 二四一 六〇
計 三、〇〇〇 (四、五七五) 一、〇五七

獨逸が斷然優勢であつて日本品は進出の餘地あり、和蘭も増大なる入超に對し一九三五年二月一日左記の如き改正をなせり(一ヶ年間有効)
陶磁器コンタンデヤン割當

磁器 一九二八、二九、三〇 三ヶ年間に於ける平均輸入額の四割五分、輸入量の七

割限度

陶器 一九二九、三〇 二ヶ年間の輸入額の平均二割五分並に輸入量の五割限度

(ホ)白耳義

一九三四年三月陶磁器に對する輸入コンタンデヤン制度庇護の下に高率なる輸入税をかけ外貨を制限したため國內工業は活潑なる活動となつて大いに復興した。

爲入税は陶器關稅率二〇%、磁器關稅率二七%で就中陶器平皿四八%、陶器食卓サービス三二%

磁器珈琲サービス五一%、陶器野菜盛四六%である。

輸出輸入狀況は左の如し

輸 入	一九三四年	一九三三年	輸 出	一九三四年	一九三三年
陶磁器以外の瓦	二、六四〇 千法	三、〇七七 千法	〃	九、八三七 千法	七、五五五 千法
煉瓦タイル土管	三、六四〇 千法	三、〇七七 千法	〃	二、七四六 千法	二、〇六三 千法
陶 磁 器	三、六四〇 千法	三、〇七七 千法	〃	二、七四六 千法	二、〇六三 千法
其 他 土 器	二、三六〇 千法	一、五九六 千法	〃	一四、五五九 千法	一四、五五九 千法

日本品の進出は稀で、獨逸・佛國・和蘭の競

争である。

結 論

日本の陶磁器輸出の旺盛は爲替關係にもよるが技術の進歩は著しく高級品に於ても何等歐米品に比べて特種品を除けば遜色は無い。世界の深刻なる不景氣により國民は生活程度低下し、日用品の如き必需品は必然的に格安な良品に轉向するは當然で何人も要求して止まないのである。その結果各國は市場の販賣確保に一生懸命となり、一般關稅・爲替關稅の賦課、不當なる輸入割當、輸入國營、輸入禁止等あらゆる防遏手段を採り、安價良品ならば常に通商の必勝的條件たる時代は去り、各國は經濟ブロックの陣を立て自由通商を解體し對外的に理由を超越した敵愾心を持つ故之等に對して抗議するも何等効果は期待されず。

日本品は嘗て米・支・印の三市場に向つて全力を注ぎし傾向があつた。もしも一ヶ所の市場を閉塞されんかその損ふ所莫大である故近時輸出市場を多方面に開拓する分散化の傾向を生じ危険率の減少に努めてゐるは顯著な事實である。然るに世界各地の消費者は安價良品を望み如何なる防止方法を策するも民衆は常に之を支持するから昭和六年以後の日本陶磁器の進出は他の本邦商品と同様に躍進に躍進、その止る所を知らず、今や各國は本邦品の防壓に苦心の状態にあり。

良原料を豊富に持ち獨特の技術を有する日本の磁器の前途は洋々なりとは云へ、今後一層研究努力し、品質向上を行ひ實力ある日本陶磁器を安價に世界へ供給し、全人類の共存共榮に向つて猛進する事緊要なり。(六元)